

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14074

建築物名称	カロナール棟建設プロジェクト
建築主	あゆみ製薬株式会社 多摩川工場 執行役員工場長 岡部知幸
建築物の所在地	川崎市高津区下野毛三丁目860番
設計者氏名、建築士事務所名	糸永 進 千代田テクノエース株式会社 一級建築士事務所
工事種別	増築
床面積の合計	3,996.58m <sup>2</sup>
用途	工場
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了年月	平成28年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。


Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency


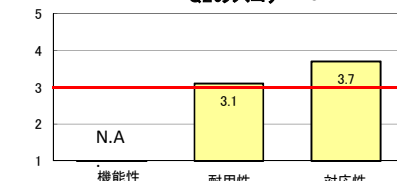

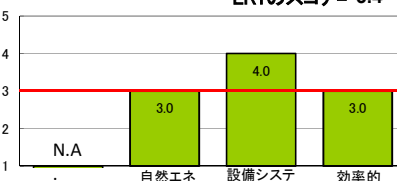
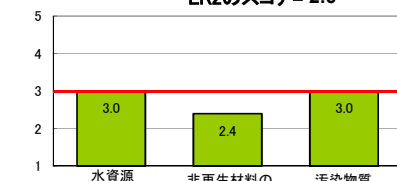
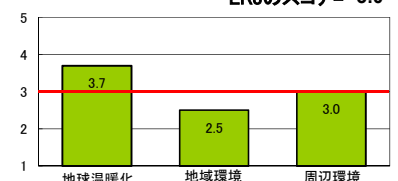
# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE川崎2011年版改訂版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE評価V11 (BPI/BEI対応) CASBEE\_HOJ\_201009020102.0

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		14074
建物名称	カロナール棟建設プロジェクト	階数	地上4F	
建設地	川崎市高津区下野毛三丁目860番	構造	S造	
用途地域	準工業地域	平均居住人員	50人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,500時間/年	
建物用途	工場(居住域なし)	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年4月 竣工	評価の実施日	2015年1月8日	
敷地面積	10,795 m <sup>2</sup>	作成者	長谷川 仁	
建築面積	1,464 m <sup>2</sup>	確認日	2015年1月8日	
延床面積	3,997 m <sup>2</sup>	確認者	糸永 進	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質 } Q}{\text{建築物の環境負荷 } L}$ $= \frac{39,48976}{47,67128} = 0.8$ <p>※居住エリアがない建築物は、評価対象外(Q1・Q2の一部)の項目がありますので、BEEランク及びチャートは表示されません。</p>	 <p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 82%</p> <p>③上記+②以外の 82%</p> <p>④上記+ 82%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>※居住エリアがない建築物は、評価対象外(Q1・Q2の一部)の項目がありますので、レーダーチャートは表示されません。</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q のスコア = 2.5			
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 0.0	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.4	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 1.9	
			
LR 環境負荷低減性			
LR のスコア = 3.0			
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.4	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.6	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.0	
			

CASBEE川崎2011(v.3.1)(BPI/BEI対応) CASBEE-NCb

コロナール改修プロジェクト

14074

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋上設置の設備機器周囲に目隠しフェンスを設置、隣地境界部へ植栽を計画 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>-</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.2 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	0.6/2.3	1.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具の採用	2.4/4.6	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	屋外ダクトの90%以上にSUS/ガルバリウムダクトを採用	0.5/0.9	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具の採用	2.0/3.9	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	0.6/2.3	1.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

-

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE川崎2011(v.3.1)(BPI/BEI対応) CASBEE-NCb

コロナール改築プロジェクト

14074

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋上設置の設備機器周囲に目隠しフェンスを設置、隣地境界部へ植栽を計画 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>-</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.2 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	0.6/2.3	1.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具の採用	2.4/4.6	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	屋外ダクトの90%以上にSUS/ガルバリウムダクトを採用	0.5/0.9	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具の採用	2.0/3.9	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市の保全及び緑化の推進に関する条例に適合した緑地の確保 屋外設置の設備機器、ボイラー高温排熱を屋上(GL+10以上)に設置	0.6/2.3	1.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

-

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	LED照明、人感センサーの採用	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				14074				
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 騒音</b>										
1 室内騒音レベル						-	-	3.0	-	-
2 設備騒音対策						-	-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能						-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	-	-
<b>1.3 吸音</b>						-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温						-	-	3.0	-	-
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	-
3 外皮性能		W				-	-	3.0	-	-
4 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	-
6 個別制御						-	-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	-
8 監視システム						-	-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>						-	-	3.0	-	-
<b>2.3 空調方式</b>						-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率						-	-	-	-	-
2 方位別開口						-	-	-	-	-
3 昼光利用設備			W			-	-	-	-	-
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	-
2 昼光制御			W			-	-	-	-	-
3 映り込み対策						-	-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>						-	-	-	-	-
<b>3.4 照明制御</b>						-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質						-	-	-	-	-
2 アスベスト対策						-	-	-	-	-
3 ゲニ・カビ等						-	-	-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量						-	-	-	-	-
2 自然換気性能						-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	-
4 給気計画						-	-	-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-

Q2 サービス性能										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性									
2	高度情報通信設備対応									
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観									
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
3	衛生管理業務									
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性									
2	免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		R							
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R							
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R							
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R							
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R							
6	主要設備機器の更新必要間隔		R							
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備									
2	給排水・衛生設備									
3	電気設備									
4	機械・配管支持方法									
5	通信・情報設備									
<b>3 対応性・更新性</b>										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり									
2	空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性									
2	給排水管の更新性									
3	電気配線の更新性									
4	通信配線の更新性									
5	設備機器の更新性									
6	バックアップスペース									
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出				G	W		H			
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H			

<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.0
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制	W		H	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W		H	3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		H	3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	W		H	ERR値15%以上	4.0	0.43	-	4.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)					4.0			
集合住宅の評価					5.0			
4 効率的運用					3.0	0.29	-	3.0
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護	W		R		3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.4	0.63	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	W		R		2.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R		3.0	0.20	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W		R		1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		2.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R		3.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率が一般建物と同等	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				R	3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制				R	3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制				R	3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				R	3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	